

RESULTS
the power to end poverty

飢餓と貧困をなくすための政策提言を行う国際市民グループ

日本リザルツ

action
Advocacy to Control TB Internationally

Tel : 03-5280-2888 Fax : 03-5280-2889 E-mail : info@results.jp

RESULTS/ACTION パートナー会議 出張報告

2012 年 10 月 15 日～10 月 21 日

RESULTS
the power to end poverty

ACTION

特定非営利活動法人日本リザルツ

リサーチ&アドボカシー・ディレクター 新里 由布子

Tel : 03-5280-2888 Fax : 03-5280-2889 E-mail : niizato.results@results.jp



* 日本リザルツ名誉顧問ムハマド・ユヌス博士



* ストップ結核大使ルイス・フィーゴ



* ストップ結核チャンピオン亀田興毅

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは 1989 年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。

I. 出張概要

1. 日程	2012 年 10 月 15 日（月）～2012 年 10 月 21 日（日）
2. 出張者	（1）白須紀子（事務局長） （2）鰐部行崇（コミュニケーション・ディレクター） （3）新里由布子（アドボカシー&リサーチ・ディレクター）
3. 目的	（1） RESULTS ディレクター会合への出席 （2） ACTION ディレクター会合への出席 （3） RESULTS/ACTION パートナー会議への出席

II. 要旨

《RESULTS ディレクター会合》	
1. 各国 RESULTS の近況および今後の方針の報告	
2. RESULTS 全体としての今後のビジョンを協議	
《ACTION ディレクター会合》	
1. RESULTS および ACTION パートナースhipに属する各団体ディレクターより、各団体の近況報告	
2. ACTION 事務局のあり方を協議	
3. 今後のパートナースhipとしての協力体制・ビジョンを協議	
《RESULTS/ACTION パートナー会議》	
1. 世界の貧困・飢餓等に関わる諸問題の情報を共有	
2. 諸問題へのパートナースhipとしての取り組み方を協議し、ビジョンを共有することが目的	

III. 出張記録 — 会合のテーマ・協議内容 等

1. RESULTS ディレクター会合

全世界に 5 団体の RESULTS のディレクターが一堂に会し、今後の戦略等が話し合われた。会合参加者は RESULTS Educational Fund (以下 REF) エグゼクティブ・ディレクター＝ジョアン・カーター、RESULTS UK エグゼクティブ・ディレクター＝アーロン・オクスリー、RESULTS Canada エグゼクティブ・ディレクター＝ジーン・フランコワ・ターディフ、日本リザルツ事務局長＝白須紀子、RESULTS Australia ナショナル・マネージャー＝マリー・ナット、また、白須事務局長の通訳として日本リザルツ鰐部、新里の計 7 名。

各国 RESULTS の近況報告、RESULTS 全体としてのビジョンなどが話し合われた。

10 月 16 日（火）

9:30 ↓ 13:00	各国 RESULTS ディレクターか らの報告	<UK> スタッフは現在 12 名おり、インターンが 2 名いる。資金はチャリティーズ・エイド・ファウンデーション、ゲイツ財団（結核対策強化に向けたアドボカシーのため）、IAVI（ワクチン R&D）から供与されている。 <オーストラリア> パートタイムスタッフが 5 名おり、元 RESULTS UK のケイト・フィンチが入った。資金調達に関しては、スポンサー企業の破たんに伴い ACTION 資金以外は苦しく、現在新たな資金調達先を模索中。直近のイベントとして、10/31-11/2 にシドニーで開催されるマラリア会議に向けてアジアの保健大臣を集めるイベントをユニセフと共催予定。 <カナダ>	
--------------------	-------------------------------	--	---

		国内近況としては、元トロント警察署長が新しく国際協力大臣に就任し、政策が注目されている。ポリオ根絶のための対策には引き続き注力する。また、保健への拠出額が3年で8-9%カットされることが決まった中での戦略を検討中。 <日本> スタッフ5名、会計士1名、REF外のスタッフ数名、パートタイムスタッフ3名で活動している。最近の活動はGAVI、UNRWA、ハーグ条約、鎌形赤血球症治療薬、IMF/世銀総会などがある。GAVIからGAVI関連活動のための資金を供与されている。 <米国> スタッフは約20名（ACTION：10名、マイクロファイナンス：6名、教育：3名）おり、その他草の根活動家が32州にわたる285名がいる。資金使途は国内外に半分ずつ。今後の大きなイベントとしては、来年のRESULTS会議はムハマド・ユヌス氏に基調講演をしてもらう予定。彼のスケジュールに合わせ、2013年7月20-23日に開催。他の招待者を検討・打診中
	Joanne と Jim Kim との対話 11/1に向けて	11月1日昼にジョアンがジム・キム世銀総裁と会食予定。これまでは、世銀総裁に対して、保健対策の重要性を訴えることが課題だったが、今は、（ジム・キム氏自身は保健対策を進める意志があるので）ジム・キム氏が保健政策を打ち出せるように彼をサポートし、世銀を説得していくのが課題。彼は世銀報道官として元MDR・TB患者で元ボストン・グローブの保健担当記者のジョン・ドネリー氏を起用した。世銀は保健対策のターゲットを明確化する必要性に言及しており、世銀が注目する鉱山労働者と結核の関連や、病気と雇用と教育の密接な関係を訴えていくとよいと思われる。
	RESULTS の拡大について	韓国にRESULTS Koreaを設置することを検討中で、カナダで教育問題などの草の根活動を行っており、現在は韓国在住で週に1回程度英語教師をしているサニー・キム氏（女性50歳前後）とコンタクトを取っている。韓国はGPEに多額の拠出を行っており教育に関心が高いので、RESULTS Koreaではまずは教育問題に重点をおくべき。ただ日本としては、STB韓国の設置などに協力した経緯もあるので、保健問題にも取り組んでもらいたい。スタッフなどへの教育にはREFトニーやRUKのダンがあたる。キム氏にはアーロンが指導可能。アドボカシー対象として、まずは有力者のサムスンなどを取り込むなど3-4のハイレベルグループを形成していく。
	Kenya への支援について	ACTION パートナーを組むKANCOの能力強化に取り組んでいくことが重要。日本のJICA-KANCO アドボカシー案件なども利用し、議員など、ハイレベルな人物へのコンタクトを形成していく。トレーニングなども検討する。

2. ACTION ディレクター会合

RESULTS 5 団体のほか、全世界の ACTION パートナーのディレクターも交えて、近況報告および今後の方針の協議を行った。参加団体は、REF（米国）、RESULTS UK（英国）、RESULTS Canada（カナダ）、日本リザルツ（日本）、RESULTS Australia（オーストラリア）、ACTION 事務局（米国）、Global Health Advocates France（フランス）、AIDES（フランス）、Global Health Advocates India（インド）、KANCO（ケニア）、CITAM+（ザンビア）の計 11 団体。

各団体の近況報告が行われたほか、ACTION パートナースHIPの役割および事務局のあり方なども協議された。また、今後のパートナーシップとしての協力体制・ビジョンも協議した。ACTION の主要ドナーであるドイツ財団のスタッフによるレクチャーも行われた。

10月16日（火）

13:30 ↓ 13:45	進捗・報告	各国から7月のエイズ国際会議（IAC）への参加、イベント開催は意義深かったとの声が挙がった。IAC後に政府からザンビア CITAM+に対してアドボカシー教育の要請があったことが報告された。KANCOは世界基金から資金を獲得したと報告した。日本リザルツが世銀総会において複数のイベントの運営に携わったことも報告した。	
13:45 ↓ 15:00	ACTION のガバナンスについて	昨年のパリ会議で、ACTION がプロジェクトではなくパートナーシップ組織に改編されたことに伴い、意思決定をどうしていくかが話し合われた。今は ACTION 各組織のディレクターが集まり、意思決定をしているが、今後は基本的に ACTION 事務局に一任する方向に決まった。資金調達に関しては、現在は独自にファンド・レイジングを行っているが、集合として活動していくなら別の方法も検討していく必要があるだろうという声が挙がった。また、優先的にお金をつけたいもの、余裕があればつけたいものを順位づけすることや、他パートナーのワークプランを共有して各国の活動を参考にすることに決まった。	
15:00 ↓ 15:25	アルドウィンから報告	これまでの2月決算から12月決算に変更され、2013年以降は予算書を11月に提出することとなった。（2012年は急なので、12月に提出）	
15:25 ↓ 15:30	GATES 資金の用途	前提として GATES 資金はロビー活動には使用不可である。そのため GATES 資金で賄っている ACTION の活動としてロビー活動を行わないよう注意があった。議員に渡す手紙などにも ACTION ロゴを入れず、ロビー活動には各団体のロゴを使用し、レターヘッドも ACTION と RESULTS で別にするよう注意があった。	
15:30 ↓ 16:00	子どもの栄養問題	2013年は栄養問題対策を強化する方針が打ち出され、アフリカ各国でのアドボカシーを行うことを検討した。	
16:30 ↓ 18:00	ゲイツ財団の Erika Arthun 氏	アドボカシー・政策チームのプログラムオフィサーである Erika Arthun 氏が発表を行い、財団の構図、TB 戦略、HIV 戦略、GF 戦略について紹介した。	

3. RESULTS/ACTION パートナー会議

各団体ディレクターの他、スタッフも参加し、四角く並べた長机を囲み、互いの顔を見ながら、今後取り組んでいくべき世界の諸問題についての意見を交わした。テーマは保健問題から教育問題、栄養問題まで多岐にわたり、

形式もワークショップ形式からプレゼンテーション形式まで、さまざまだった。全3日間。

① 10月17日（水）

9:00 ↓ 9:45	ガイダンス	各自の紹介、 スケジュールの概況 ディスカッションのルール設定等	
9:45 ↓ 10:15	報告	・UKのエグゼティブディレクターであるアロンから昨日のディレクター会合の内容を全体にフィードバック	
10:15 ↓ 12:30	ワークショップ	【テーマ】 今後の我々の活動に必要となること。今後、我々が行動すべきこと。今年最も重視すべきこと。 以上をグループ分けして討論。アドボカシー活動等活動軸やBRICS等地域軸、ポストMDG等目標軸等グループ発表。個別の課題ではアフリカ問題、FTT、新分野への挑戦（栄養問題、子供の健康問題等。）	 
12:30 ↓ 13:30	世界銀行	【テーマ】 保健問題で今後、世界銀行が更にコミットしていく上では我々は何をすべきか。 ジョアン・カーターの司会のもと、各自が意見を言う形式で、低開発国に対する予算は世銀全体のプレッジで3%以下になっているという事実を如何に改善すべきかという点から議論がスタート。評価システムのチェック等議論は出たが、結局はジョアンが11月初めにジム・キム総裁と会うのでそこでなにを言うかということをし合った。	 
14:30 ↓	世界基金	【テーマ】 世界基金は現在、資金提供額と被提供額の差（ファンド・ギャップ）が現時点で	

16:30		15 億～20 億ドルと推計される。追加資金を獲得する上で我々は何をすべきか。 思い思いの意見が出たが ACTION 全体として具体的に動く結論には至らなかった。個別では受益国側の実状をアピールするアドボカシー活動、世銀理事会のメンバーに対する強力なインプット等。日本から TICAD においてイボンヌチャカチャカを TICAD 大使に据えて、同時期に来日するジェフリー・サックス教授、ジム・キム世銀総裁、潘基文国連事務総長、ビル・ゲイツ氏にインタビューし、全員が世界基金を支援する同じ声明文を読むというアイデアを披露した。
17:00 ↓ 18:00	【報告&討論】	ACTION 事務局から TB、ワクチンの計数について今後、事務局でデータを集める方法論等披露。各国からの意向を聴取。
夜	親睦会	メキシコ料理店でフランクに意見を交わし合った。

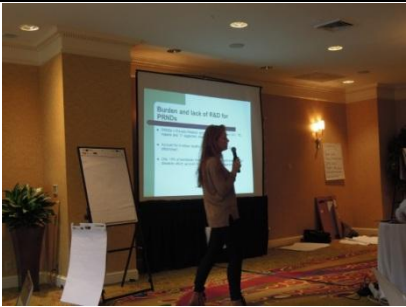
② 10 月 18 日（木）

9:00 ↓ 11:00	子供の健康問題	【テーマ】 子供の健康問題は現在、リザルツのテーマとして取り上げていきたいという主張を持つスタッフが多い（米、カナダ等）ので、その際の問題点等を討論（全体討議＋グループディスカッション） 子供の栄養不足を専門に取り扱っている国際保健機関は現状無い（UNICEF は関与しているが）。CIFF 等財団は存在し GAVI 等寄付を実施している。但し資金提供を受けて活動するとなると難しい問題がある（ターゲット指標、効果測定等）。UNICEF のイニシアティブで子供の主要な死亡要因となっている下痢や肺炎の発生率の高い 10 か国に対する対策協議について米国スタッフより説明があった。但しこの問題はそもそも誰（米国、EU、国際機関）がイニシアティブを持って進めるのかという点に議論が集中した。	
11:30 ↓ 12:30	GAVI	【テーマ】 GAVI の現在の問題点について GAVI の活動は必ずしも衡平なワクチン接種という観点から評価出来ない点もある。GAVI の理事会には CSO は 1 席あるのみであり、影響力としても心細い。更に決定プロセスも不透明である。以上を踏まえて、GAVI に対する指摘乃至はレターを出状することも検討。但しリスクは充分考える。	
13:30 ↓ 14:30	アフリカ	【テーマ】 ゲイツ財団が現在最も力を入れているのはアフリカであり、今後、どこに、どのようにリザルツに活動を広げていくか。 CITAM+ と KANCO はリザルツを通じてアドボカシーワークを強化してきた。他の機関にも応用出来る（トーゴ、カメルーン、セネガル等）。但し一方では問題も多い。例えばカメルーンではアドボカシー活動そのものが犯罪として刑務所に送られるリスクがある。またトーゴにおけるアドボカシーで資金を獲得するのはまず難しいという現実がある。アフリカを考える上ではこのような複雑なこ	

		とを検討すべき。以上を踏まえてまず大国である南アフリカでの可能性を考える。また既存のネットワークでアドボカシートレーニングやセッションに招聘出来る組織を検討する。	
14:30 ↓ 16:00	ワークショップ 一回目	【テーマ】 ①キャンペーンの計画と評価、②パートナー間との協働、③アドボカシートレーニングの3テーマに分かれてグループ討論を実施した。	
16:30 ↓ 18:30	ワークショップ 2回目	【テーマ】 ①議員への活動、交渉、②チャンピオンの発掘、育成、③克服べき困難な課題（其々の地域）の3テーマに分けてグループ討論を実施した。	

③ 10月19日（金）

9:00 ↓ 10:30	グループ別討論	【テーマ】 1. GAVI パートナーフォーラム（2012年12月3-7日@タンザニア） 2. 結核ワクチンフォーラム（2013年3月25-28日@南アフリカ） 1. GAVI PF CSO アドボカシートレーニング実施予定であり、1)チャンピオン形成、2) 予防接種に関する国内アドボカシーのためのネットワークづくり（メディアに向けたアドボカシー、予算確保のためのアドボカシー、WHO やユニセフのサポート要求）を目的とする。 2. 結核ワクチンフォーラム 3回目（第1回は2001年、第2回は2010年にエストニアで）の今回は、ワクチン治験実施施設への訪問を予定している。Yvonne Chaka Chaka も参加する。	
--------------------	---------	--	---

		メインテーマはワクチンの分配・アクセスの強化となる。プレナリーでは持続可能性について、R&D への継続的資金援助についても議論する予定。多くの国が結核ワクチンについて知見を獲得できるよう、なるべく多くの国の大使に出席してもらいたい。27 日（水）は一日を通じてアドボカシーに焦点が当てられるなど、参加意義が大きいので、ACTION パートナーは本フォーラムへの参加を予算内で優先すべきと伝えられた。	
11:00 ↓ 13:00	R&D 戦略協議	【テーマ】 最近の R&D の状況を紹介。今後の R&D への資金拡大の可能性について。 結核ワクチン、子どもの保健への関心が高まっているので、その分野でさらに啓発するという考えが共有された。日本リザルツは、栄研化学株式会社が開発した途上国向けの新たな結核診断法 PURE-LAMP について発表し、Gene Xpert とすみ分けさせて普及させるべきとの見解や、LAMP の結核以外の疾患（アフリカ睡眠病・マラリア等）への適用の可能性をアピールした。また、独立行政法人医薬基盤研究所が開発中の結核ワクチンのことも紹介した。全体として、2013 年 3 月の結核ワクチンフォーラムでメディア等を活用し、広く研究開発の重要性を訴えていくことで合意した。	 
14:00 ↓ 15:00	予算について Aldwyn から報告	会計期間が 1 月 - 12 月に変更したことが報告された。また、会計期間の変更に伴いワークプラン・予算案の提出が 11 月中旬に変更された（今年に限っては 12 月中旬に提出）。次回より新しいテンプレートを導入（結核とワクチンで活動分類）することも発表された。	
15:00 ↓ 15:20	EU の結核対策強化について	【テーマ】 EU はあまり結核対策に取り組んでこなかったが、この状況をいかに変えていくかについて検討。 結核対策に協力的な国から始め、拡大していくという戦略をとっているが、今後患者をもっと取込み、市民の立場からの訴えを行っていくことが大切という結論になった。	
15:20 ↓ 15:40	IMF/世界銀行総会報告	・日本リザルツが教育・国際連帯税・国際保健など多岐にわたる分野で 7 つの公式/非公式のセッションにて主催/開催協力をしたことなどを報告。	
16:00 ↓ 17:00	事業拡大に向けて	【テーマ】 18 日に引き続き、ACTION の活動の拡大について検討	

		アフリカにもっとパートナーを増やしていきたいとし、エチオピア・タンザニア・セネガル・ナイジェリア・ルワンダ等が挙げられた。また、かつてのパートナーインドネシアで活動を再開する可能性や、既存のパートナーシップを利用する方法（各国 STB など）が検討された。	
17:00 ↓ 17:30	ポスト MDGs 戦略協議	【テーマ】 ポスト MDGs の主要テーマとしてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) が広く取りざたされているが、ACTION としてどのような姿勢をとっていくべきか。 UHC を目標にすることについては、指標がわかりにくく、達成度も不明確な目標となりうるため、賛成すべきかどうか、よく検討していくべきとの意見が出た。	
17:30 ↓ 18:00	おわりに	・次のパートナーミーティングはケニアで開催予定。	

以上